

教育施設の老朽化は目を覆うばかり

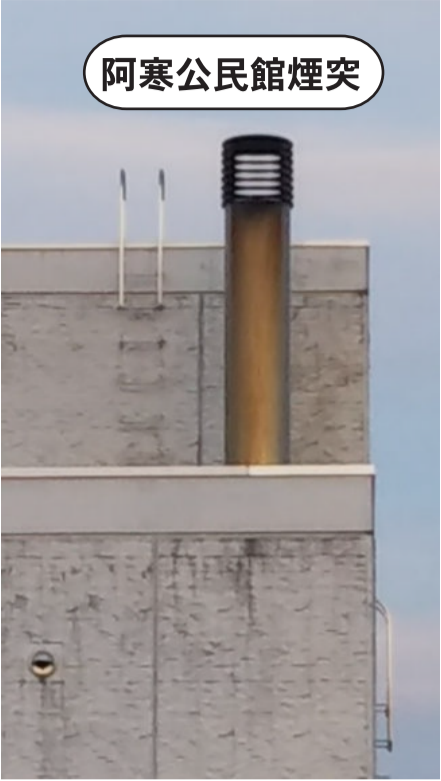
大型開発優先で、今の市政は公共施設の修繕を後回しにしています。3月議会で、村上かずしげ議員は、特に修繕・撤去が急がれる3つの施設を取り上げました。

雨漏りが続く鳥取温水プール

一つ目は、屋根の防水工事をしても、壁からの雨漏りが続く鳥取温水プールです。壁全面の張替えをスポーツ課は予算要望しましたが、予算査定でこの分は全額カットになりました。

アスベスト建材の煙突が劣化

次は阿寒公民館。アスベストの建材を使った煙突です。毎年一回、大気測定をしながらアスベストが漏れ出ないように、なんとか使っています。建材の剥離を起こしたこともあります。



阿寒公民館煙突

プレハブ校舎



いつまで続くプレハブ校舎の野ざらし

この修繕予算も全額カットです。さらにはひどいのは、愛国小学校。児童数が急増した時にやむなく「プレハブ校舎」を建てました。しかし、使わなくなってもう5年。毎年撤去を求めているのに、それも放置。危険なので子どもの立ち入りは禁止、遊具と本来の校舎の間に、プレハブ校舎をつくりまし

たから、子どもたちの活動にも支障をきたす始末です。学校側も「早く撤去してほしい」と切望しています。

次年度の港湾の建設予算は8億円を超えています。不要不急の工事が目立ちます。優先して手立てしなければならぬのは、こうした教育施設の改修ではないでしょうか。

昭和と北園の境で またも大規模道路冠水

11日は記録的な大雨。前の週のドカ雪もあって、各地で道路冠水が発生しました。特にひどかったのは北園・昭和南六丁目と中鶴野。住民の通報を受けて、議会終了とともに北園の現場に駆け付けた村上議員。一軒一軒訪ねて、被害の様子を聞いて回りました。

この地域は、側溝を通して湿原の水が住宅街に押し寄せてきます。配水管が細いので、すぐにあふれてしまいます。市は土のうを配るなど被害の拡大防止に取り組みましたが、小手先の対策では、毎年水害を繰り返すだけです。

湿原の水を住宅街以外に流すことや、仁々志別川の河川改修が必要ではないでしょうか。



村上かずしげ 3.29 通信

発行 共産党釧路市議団 Tel.23-5212

